

本庄村史資料

深山家文書（追録一）

神戸深江 生活文化史料館

目 次

慶應三年 種痘免許……大阪種痘館	24
亥未七月 種痘免許……兵庫県	24
自安政ノ至明治 種痘姓名録	24
きゅう屋商許可書	24
送状之事 差許書	24
送状之事 差許書	24
肴尾茂吉病死ニ付遺族へ知らせ方依頼	24
明治廿八年 虎列刺大流行の状況報告	24
明治三十七年國內戰捷祝賀の状況報告	24
明治三十八年本庄村長よりの慰問状	24
明治三十八年障中見舞を兼ね當地現況報告	24
陳情書	24
深山村長退任感謝状	24
芦屋川改修功勞に対する感謝状	24
源左衛門一件	24
實物差入銀子借用延文之事	24
差入申借用銀一札之事	24
三條村照樂寺一條證文之写不通養子證文之事	24
養子置話一條證文之写不通養子證文之事	24

一札（加茂村岩田尾五良三郎～照樂寺）……24
 一札（深山宗詮～三條村照樂寺）……24
 優曇華由來……24

慶應三年種痘免許…大阪種痘館

今般牛痘之施術及真假
鑒定之口決皆得其意候ニ付
令分苗候以來本館之規則ハ
勿論仁術之本旨相守疎漏
無之様可相心得候 以上

慶應三年
卯十日 種痘館

丹波元禮組合
攝州兔原郡深江村

深山玄石方

亥未七月種痘免許…兵庫県

菟原郡深江村
深山玄碩

其方儀 願之通
當縣官下種痘方
令免許候 条懶篤
之投を以て實体
施術可致事

亥未
七月 兵庫縣印



自安政～至明治 種痘姓名錄

(カルテ数)
 安政 105
 万延 96
 文久 712
 元治 45
 延應 51
 明治 123
 計 1134

表

○ 水抜 江戸吉の西隣 借家
 福田屋 安次郎 一才 女子

○ 水抜会所の家 東行當り
 大和屋 庄助 廿五才

札場通浜

○ 赤尾屋 久吉
 五月生 一才 元吉

裏

○ 右左文久
 ○○○○二戌
 ○○○○十一月一日
 ○○○○三又

○ 右左文久
 ○○○○二戌
 ○○○○十一月一日
 四又

○ 右左文久
 混陽○○○○十月
 小松○○○○廿二日種
 文晴種令至貰苗宣厥面二期兒

送狀之事 一差許書

表

送狀之事

一、唐米 五千斤

右御改濟之品積送候御改請取可被成候以上

午 壬月十四日

貿易商社

山本屋
長兵衛殿

裏

表書之品積送差許者也

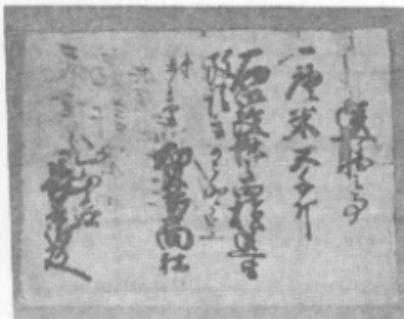
兵庫縣

運上所

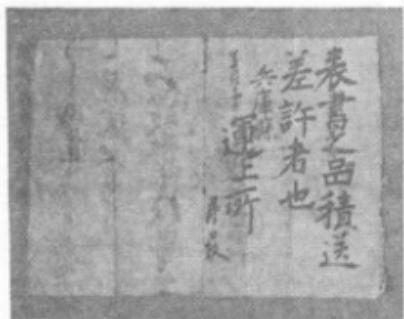
八己十月十四日

帰日 改

表



裏



送状之事 一 差許書

表

送り状之事

一、唐米 壱萬斤

右御改濟之品積送候御
改請取可被成候 以上

午九月十二日

貿易商社

笠屋
徳松殿

表書之品積送
差許ノもの也

兵庫縣

午九月十二日 運上所 ⑩

表書之内弐千弐百斤 ⑩

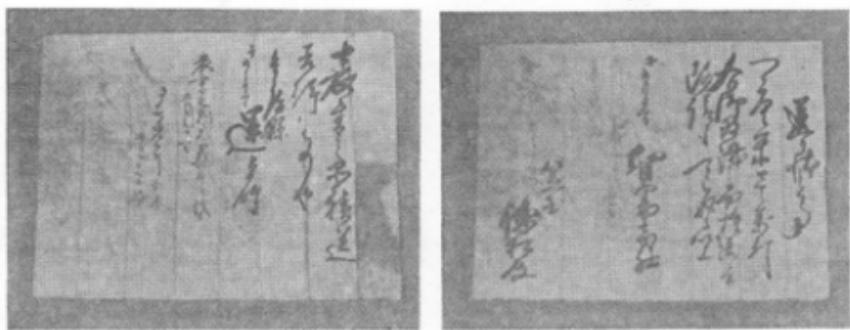
九月十三日

九月十七日
一千七百八十斤
皆済

改 ⑩

裏

表



子正月

肴屋茂吉病死ニ付遣族へ知らせ方依頼

未夕不得御意候得共追々春暖ニ相成候許、益

御一統様御氣嫌能被遊御座恐悦至極幸存候、從而當方無事罷在候間乍拂御安意思召可被下

候、然者其御屋西之宮出生之茂吉ト申者四拾余年以前當所參住居仕候處、去霜月頃必病氣

之所當正月十六日病死仕候、然所西之宮在所

ニ親類衆之名前一向不相訛、御爲知申上處候

へとも西之宮ト申事計承り置候間誠ニ以困入

申候、家内之者申候ニハ、先年上京仕候節在所へ尋寄候節貴君様方へ參候よし申候、常々

茂吉も申し出來
貴君様御世話ニ相成居候様申候故、何卒御苦勞ニハ候得共茂吉親類方へ鳥渡右御爲知被下候様御願申度、家内も宜敷申上與候様申事御座候、私儀ハ肴賣仕候肴屋次郎十ト山者ニ御座候所、先年茂吉初而岡崎江參候節淨留りかたりの爲藏ト申者ヲ尋參居候所、元茂吉

も肴賣仕候ニ付爲肴々私方江頬暫私方居候處、一两年も過候而る町中肴爲壳吳候様相頤候ニ付別宅仕肴賣仕候、凡四拾余ニ相成親類

同様ニ仕居候間病死仕候ハ甚残念存候、右之仕合御座候故一向在所衆中名前相不分、

貴君様之御名ハ攝州灘原江村深山宗仙様申事常々茂吉申候ニ付率御苦勞掛候、伺卒相分候ハ、親類方迄御爲知可被下候、奉願上候、尤

改名法名ハ別紙ニ申上候、右親類方へ右之由御頼申上右御爲知申上如此御座候、草々謹言

子正月廿五日出

岡サキ

肴屋次郎十

深江村
深山宗仙様

尊下

明治廿八年虎列刺大流行の状況報告

先ハ厄報迄申述度繁忙中取急キ乱筆御推頤被
成度候

(明治廿八年)

七月十六日

船垣廣三郎殿

深山玄碩

書翰披見委細承知致し候、如來驗時下向署之
候愈無事被成勤務大慶ニ存候、次ニ當方始メ
深江之方も皆々無事ニ暮し居候間此段休神可
被成候、却説足下勤務非常ニ繁忙ナル事際し
候、就而ハ可及の攝生ニ注意有之度候、當方
出水云々記載有之候へども是ハ唯一時小川ニ
出水致し候様之事ニ而水害ト申様之事ハ無之
候間休神可被成候、當地も先月末より虎列刺
流行シ、小生も検疫之一部ニ加ヘラレ繁忙之
上ニ繁忙ヲ極メ實に困リ居候、當地之分大抵
一日或ハ四五時間ニシテ弊ルモアリ、實ニ是
迄一回も實見セシ事ナキ症アリ、如何トナレ
ハ嘔吐而已ニ弊レ又ハ下痢而已ニチ弊ル、モ
之アリ、過日神戸検疫所より医学士參リ吐し
候ニ神戸も同斷之症夥多有之趣キ吐し居候、
實ニ本年の虎列刺ハ古来未層有之刺的ニ候、
能々食物ニ注意被成度候、先當地刺的今日迄
之景況ニテハ十中ニ一救命無覺束縛被存候、

明治三十七年國內戰捷祝賀の状況報告

時下朝夕ハ稍秋冷相催し候處、足下益健軀被成勤務候趣キ大慶ニ候、却説本年ハ當地方ハ不□及全國流行病ハ近年ニ稀ナル小數ニ而、西宮ニテ當春より赤病三名、灘地方ニ而青木村ニ類似虎列刺毫名發生セし而已、両家とも家内者皆々無事ニ暮し居候間御休神可被成候、陳者先般池川より報告爲致候安産之義ハ定メテ承知之事ト存候得共重復報知致し候、七月十日男兒分娩母子共建全、名ヲ寛ト相付し不取政役場へ届置候間、宣敷御承引可被成候、拵本年ハ天候良順ニシテ全國十二分之豐作、古來未曾有之事ト存候、然ル處毎々戰捷之号外ヲ配達シ、過日遼陽占領之際抔ハ當町之如キハ提灯行列ニ種々之姿ニ変化シ老婆ガ娘トナリ、戎大黒其他種々之異狀有之、就中人眼ヲ引キタルハ酒袋ニテ洋服ヲ製シ細縄ニテ軍服之飾リヲナシ、一中隊斗リラツバヲ吹キ石油之明空ヲ扣キ市中ヲ練歩行タルヲ第一ト

ス、夜中本町ハ十日戎之祭日之如ク群集シ、市中両側ハ軒下ニ戰捷之軒吊提灯ヲ問口ニ應シ數張ヲ吊シ、道路上ニハ南北屋根ヨリ屋根へ藁繩數百筋ヲ渡シ、其繩ニ紅幡提灯國旗ヲ吊シ夜中蠟燭ニ火ヲ点ズレバ盡ヲ敗ク斗リ之景況ニシテ、新聞紙ヲ報ルニ全國至ル處皆々同様之事ト想像致し候、右之次第二候へ者當方之事ハ放念被成、追日寒冷ニ向ヒ候得者自愛大切ニシテ國恩ヲ報ゼン爲勤務勉勵可被成候、先者當地概略如此ニ御座候、餘者後便ニ譲リ候也

九月十六日

深山廣三郎殿

深山

明治三十八年本庄村長よりの慰問状

拝啓仕候余寒蟄敷吳處御壯健ニテ軍務ニ從事セラル、候段爲國家奉賀申候

信テ御出征以来既ニ拾余ヶ月間炎熱ニ冒シ寒氣ヲ凌キ万難ヲ排シ目下嚴寒ノ異域ニアリテ勇敢ナル御動キ在セラル、其御辛勞ハ実ニ言吾筆紙ニ難盡唯感謝スルノ外無之茲ニ一言以テ御慰問ノ意ヲ表候也

二伸内地本村狀況ヲ報告仕候

一、明治三十七年六月十五日亥海灘ニ於テ常

陸丸遭難ノ際乗船常陸丸ト共ニ沈没戦死シタル深江村出身ノ納多末吉、岡田弥三吉ノ両氏ニ對スル村葬ハ本年一月廿日之ヲ執行シ盛葬ニ有役

二、奉公義会ナルヲ成立シ其役ヲシテ客戸ヨ

リ毎月金品ヲ徵収シ出征軍人家族ノ救護ニ遺憾ナク勤行シツ、アリ

三、本村出軍人中ニ戰死セシモノハ前記之武名而已ニシテ負傷者ハ青木出身上田兼吉

(貢通銃傷) 氏ナリ然レトモ既ニ療養中ニシテ畠詮快シ居モノ、如シ其他病氣爲メ除隊セラレシモノハ深江村ニテ松井政吉・飯田正次郎・岩井岩次郎・永井丑松・小川作藏・高見仲三郎・青木村出身笠谷喜之介・梶井龜太郎・飯田徳松(飯田徳松ハ予備病院ニ収容中)ニ有之其他ハ陸海軍共皆無事ニテ軍務ニ從事セラレツ、アリ又本村ヨリ出征軍人ノ數ハ現役予后備、補充共六拾五名ノ多キニ達シ今尚ホ召集ニ應召シツ、アリ

四、本年徵兵適齡者三千名ノ内一年志願兵二名海軍志願兵九名ニシテ戰爭大勝利ノ結果本村青年ハ軍事思想ヲ高メタリ

五、本村々民ハ戰後ノ至官に注意シ農家ハ其農業ニ勉勵シ商工業家モ又大ニ奮励シツツアリ、前年ヨリ國債募集三回ニ及ヒシモ其都度割当額ノ三倍乃至四倍ニ達シ應募申込ヲ爲シタル之皆貴君、等、勇敢ナル戰闘大勝利ノ結果ナラン

六、教育、衛生、等ニ至テモ充分注意シ目下

ノ生徒ハ第二ノ軍人タラン思想ヲ養ヒツ
ツアリ、貴君ノ御恩女二人日々学校ニ通
学シテ能ク勉強シツ、アリ毎度軍人ノ入
營ニハ学校生徒一般ニ輶送シ実ニ愛ラシ
キ声ニテ軍歌ヲ奏し送輶シツアリ

以上

明治卅八年二月十五日

兵庫縣武庫郡本庄村長

福井辰藏

陸軍二等軍医深山廣三郎殿
追テ新年賀状差出ヘキ苦之處其筋ノ注意
ニヨリ之レヲ見ハセタル義ニ付不悪御了
知ヲ乞

明治三十八年陣中見舞を兼ね当地現況報告
六月十九日出之書面致坡見委細承知致し候、
嘸々繁務之事ト致遠察候、併し足下身体ニ異
状ナキ事何より大慶ニ存候、當方も春以来お
照及ヒ深江晃共病痛に罹り候得ども今快致し、
其後者兩人とも以前よりハ肥満致し、晃ハ頗
ル付之健康ニ相成居候間御休神可被成候、扱
先々月海戦大戰捷ニシテ敵國軍艦殆ト全滅セ
シ趣、定メテ新聞紙ニ而承知之事ト存候、夫
故内國人ハ何國も狂氣之如ク大賑ニテ、己ニ
當町之如キハ酒造家一統元祿時代之衣装ニテ、
腰ニ木刀之大小ヲ差し頭ニハ其時代之髪ヲ冠
リ、一統打揃ヒ廣田神社へ參詣シ、夫ヨリ戎
社内ニ帰リ該境内ニ者種々模偽店ヲ出シ、飲
食物ハ不及付當町藝妓悉皆元祿時代之姿ニテ、
元祿踊ヲ成シ、各町ヨリハ種々之踊ニハカラ
成シ、屋臺ニハ少女之舞等ニテ大雜沓ヲ成居
候處雨天ト變シ、其後ハ日々打續降雨而已ナ
ルヲ以テ中絶致シ候、乍然本年ハ珍敷大雨ナ

レトモ當郡内ニハ水損ハ少しも無之、農家者
麥之収穫時ナレバ少々迷惑之趣キ位ニテ先々
結構ト云ザルヲ不得候、次ニ信次嫁之義ニ付
お貞ガ委敷申送リタル事ト存候、今般川辺郡
加茂村農家佐々木介太郎より至極秘素ニして
貰受、想意先者不及申親藉よりも半紙壳折ク
クトモ更ニ不受、唯雇人同様之事ニして相済
し候、何れ足下兄弟帰郷之上始メテ披露可致
心算ニ候得共宜敷御承知置被下度候、猶又大
之義も承知致し囁々惜キ事ト被察候得ども上
官之命令ナレハ註方無之次第ニ候、追日大暑
に向ヒ候得者自愛専ニシテ勤務勉勵可被成
候、先者返報迄

早々不備

七月三日

早々不備

深山

深山廣三郎殿

陳情書

恭シク一書ヲ戴シ謹ンテ閣下ニ呈シ敢テ清豐

ヲ仰カントス今般精道村ニ於テハ其傳染病院
ヲ自村ノ内ニ建設セシテ之カ敷地ヲ其隣接

セル下名等ノ居邑タル本庄村ノ内深江村字泉
ヶ坪五百貳拾四番地、五百貳拾九番地ニ選定
シタル趣承及候惟フニ此事タル我等深江村住

民一同ノ休戚ニ關スル重大ナル問題ニシテ若
シ討議ニシテ其ノ提案ノ如ク決セラレンカ吾

等ハ其生活ノ安寧ニ對シテ痛烈覬切ナル打撃

ヲ蒙ラズンバアラズ是下名等ノ到底點々トシ
テ忍フ能ハサル所ニ候敢テ左ニ其ノ理由ノ二
三ヲ開陳シ閣下ノ御慮ヲ累ハシ候

一深江村ノ發展ヲ妨ク

該指定地ハ深江村ノ北方電車線トノ中間ニ
位シ精道村ノ内津知村ヲ距ルコト六十間深
江村ノ人家ヲ隔ツルコト町余而シテ本邑ノ
南ハ海岸ニ瀕シ漁家既ニ比櫛シ北部漸ク余
裕ヲ残スノミ近時交通ノ便益愈々發達シ田

園ノ家居倍々增加シ而モ村民ノ繁殖亦滋力
ラント然ラバ則チ傳染病院ノ建設ヲ此ノ地

ニ見ルカ如キハ実ニ本村發展ヲ妨クルコト
甚大ナルモノト云ハサルヘカラズ病舎ノ近
通誰カ居寓ヲ求ムルニ快シトスルモノアラ
ンヤ而モ其地發展ノ衝々當ラントスル場所
ナルニ於テヲヤ本村唯一ノ展足地ヲ奪フト
共ニ又地價ヲ低落セシメテ經濟的ニ損害ヲ
及ホスモノ実ニ渺少ナラス我等ノ痛苦ニ耐
ヘサル所以ノ一也

二衛生上憂フヘキモノアリ

該指定地ニ接通シ恰モ一水流アリ注下シテ
深江村ニ入り分岐シテ居民日常ノ使用ニ供
セラル万一千病害ノ流ニ從フテ散布スルコト

アランカ其ノ及ホス所実ニ測リ知ル可カラ
サルモノアラントス勿論其設備ヤ敢テ等閑
ナラサルヲ信スト雖モ都會ノ病院ニ於テス
ラ其使用人ノ怠慢等ヨリシテ往々衆庶ヲ染
毒セルノ事例亦乏シカラサルモノアリシヲ
聞知ス況シヤ邊鄙ノ邑落ニ於テオヤ緊急ノ

必要ナクシテ特ニ斯ノ如キ處アル地点ヲ選
マントスルヨリハ寧他ニ安全ナル場所ヲ定
メンニ如カサルヲ思ク之シ我等ノ解スル能
ハサル所ニシテ又タ憂愁措ク能ハサル所以
ノニ也

三吾等ノ生業ヲ害ク

深江村ハ海岸ノ里落ニシテ住民ハ漁撈ヲ以
テ主要ナル生業トス而シテ此ノ地ニ傳染病
院設立セラレンカ顧客ノ嫌忌ヲ招クヤ必セ
ク之レ人情ノ済ニ已ムヲ得サル所ナリ况ン
ヤ前述ノ如ク敷地ニ接セル水流注テ此海ニ
入ルモノアルニ於テヤ万一事ヲ藉ヘ曾ヲ
虎疫ニ因テ大阪河水ノ使用カ嚴禁セラレタ
リシ事実ニ想ヒ至レハ戰慄ヲ禁スル能ハサ
ルモノアリ然ラハ則チ本村漁獲ノ魚介ハ一
般ノ忌避スル所トナルヤ當然ニシテ吾等ハ
其ノ生活ノ本源ニ一大恐慌ヲ受ケズンバア
ラズ是レ吾等ノ窮困極マラントスル所以ノ
三也

四病舎ヲ此所ニ建設スルハ緊要事ニ非ズ

凡ソ社會公安ノ爲メ事緊急切実ノ必要ニ迫
ルニ於テハ吾等亦多少ノ犠牲ヲ拂フノ已ム
ナキヲ知ル然レ共何等緊切ノ必要ナクシテ
生活ノ安固ヲ害セラル、カ如キハ吾等其理
由ナキヲ思ハズンバアラズ吾等其属スル本
庄村ニ既ニ一傳染病舎ヲ有ス深江青木西部
落ノ中間ニ位シ又水流ノ衆庶ヲ害スル處ア
ルモノナク便利ニシテ安全ナル地位ニアリ
本庄村ニ在ツテハ已ニ之ヲ以テ設備不完全
ナラハ之ヲ改良スヘク舎室狭隘ナラハ之ヲ
拡大スヘシ何ヲ善ンデカ本村ニ對シテハ偏
隅ナル泉ヶ坪ニ之ヲ新設スルノ要アランヤ
而カモ吾等住民ノ生活ノ利益ト将来ノ発展
トヲ犠牲ニ供シテ之ヲ隣落精道村ノ爲ニ設
置セントスルガ如クンバ事理ニ违ヒ常識ヲ
失シ衝平ヲ欠キ吾等殆ント之ヲ評スルノ辭
ナシ况シヤ精道村ハ本庄村ニ比シテ面積數
倍シ決シテ其村内ニ適当ナル土地ヲ求ムル
ニ苦シムモノニアラズオヤ其他現下ノ情況
ヲ察スルニ住民ヲ危虞ニ陥ラシメテ尚此

所ニ傳染病院ヲ建設スヘキ理由毫モ之ヲ察
見スル能ハス是レ吾等ノ最モ惑フ所以ナリ
以上具陳シ來レル分當詳悉細微ノ点ニ亘リテ
ハ一朝ニ撲滅シ盡ヌト得サルモノアリ只茲ニ
ニハ重要ナル數点ヲ擧示セルニ過キス闇下願
ハクハ之ヲ惟シ之ヲ察シ深ク研メ審カニ繕ネ
明妻ヲ重レテ吾等住民一同ノ爲ニ憂惧ヲ排
シ危殆ヲ除カレン事ヲ謹ンデ状ヲ具シ上申候

山野谷多巣岡志永飯岡
田田田田井田藤正
口田川益田浅龟吉吉
鉛松太右竹久郎吉郎
藏郎秀衛門松吉郎
藏

磯高永岡吉米飯中磯志納難磯岡中山岡宮野高
野林井野永田田田野井多波野田尾本野内田
亀重増宗米秀左喜久浅政又や末岸善
三妙定兵太次工定太太市市く吉松吉郎
郎吉吉衛郎郎吉一門吉郎郎吉市市く吉松吉郎

岡清納金謙謙山松謙松片納松岩中寺濱謙伊謙
田家多岡田田本尾田下田多尾本網田崎田東井
榮伊伊八松
久易常太實之福米字三之音由竹龜政鶴政正
吉直吉郎藏介介松吉藏八介吉松松吉吉松吉治

丸 花 花 納 上 服 磯 松 寺 永 多 来 間 村 岩 納 梶 木 阪 小
谷 谷 多 田 部 谷 田 井 田 吉 部 辻 井 多 奈 下 口 原
仙 松 千 万 定 市 梶 鶴 亀 良 増 次 石 拳 吉 之
安 太 太 代 謙 竹 次 平 正 次 太 太 太 三 と 増 次 石 介
藏 郎 郎 松 吉 松 郎 吉 吉 郎 郎 郎 め 吉 郎 松 石

寺 黒 田 濱 清 横 魚 大 田 磬 大 野 漁 間 官 宮 宮 芦 東
田 賀 本 治 水 谷 谷 川 川 井 照 田 野 田 内 内 原 野
安 宇 郎 佐 鶴 安 庄 新 太 玉 志 德 音 平 音 作 實 三 伊
太 藤 仁 右 佐 鶴 安 之 太 玉 志 德 音 平 音 作 實 三 三
郎 吉 介 平 門 吉 松 藏 介 郎 吉 友 松 吉 吉 吉 藏 吉 三 郎

飯 松 濱 寺 宮 志 前 永 間 天 永 田 間 藤 納 漁 藤 納
田 井 田 田 崎 井 川 井 田 王 井 田 本 本 多 野 井 田
一 悅 元 音 庄 次 郎 德 治 岩 市 寺 亀 中 保 本 次 市 太 常 鶴
馬 藏 吉 吉 松 郎 吉 吉 松 谷 鶴 藏 太 葵 太 郎 吉 吉 吉 吉
藏 郎 藏 郎 藏 郎 藏 郎 藏 郎 藏 郎 藏 郎 藏 郎

深山村長退任感謝狀

深山廣三郎氏大正二年五月二十七日当村村長ニ選出せられ全年六月四日就任し爾來大正六年六月三日退任ニ至るまで孜々として村治の難局に當る在任一期に過ぎざるもしかも其間芦屋川の改修並病院の建築川崎商船学校の設立等本村前途の發展に関する幾多重大問題襲出す、芦屋川改修は起業村精道村なるも從來の關係上同村との共同事業にして拾四萬五千圓の豫算を以て大正四年十二月二十八日其筋の認可を得大正六年三月二十六日改修工事全く落成するに及び木村側の努力と主張の功果漸く見るべきものあらんとす、大正五年十二月二十八日縣知事の許可にかかる造病舍建築に至つては坪數宅千五十坪經費壹萬九千圓を要し是又便宜の爲め精道村を御願村と爲すも實は二ヶ村の事業の外ならず完成後組合組織の計劃あるもの此造病院建築に對しては村内に反対するもの現はれ幾多の糾余曲折を経

たりと雖も幸に目下建築中なれば落成の上両村公衆衛生に貢献する所甚大なるべきものあるべし若し夫れ川崎氏か近時我國海運界の勃興に鑑み船員の不足を憂へ商船學校を設け偶本村を校舎建築地に選定したるは愈々べく之に要する敷地買収に對し大に盡力し能く公平を持し川崎氏と土地所有者の中間に介在し今や殆んど買収を全ふし今後正に本村の發展に資するものあるは疑ふべくもあらず、其他養老會を組織し高齢者を慰め或は教育事業に關し學齡兒童の就学を勧め教職員を獎励したる治績の例挙すべきもの渺からず氏は實に自治政幾多波瀾の間に立ち溫厚篤實の資性に加ふるに高潔の人格を以て衝に當り施政妥く前途の發展を先見したるものにあらざるはなし一時一部村民の反対に逢着し爲に自家醫藥の如き損耗を招来せしもの多きも更に意に介せず其素懷の歓望するに足るものあり云ふまでもなし今退任に際し村會の決議を経て茲に在任中の功績を記念せんため置時計壹個を贈呈

し感謝の微意を表す

芦屋川改修功勞に対する感謝状

大正六年七月廿六日

兵庫縣武庫郡本庄村々長 木村梅太郎
深山廣三郎殿

大正三年三月精道本庄両村ノ芦屋川改修ヲ企
圖セシ以來貴下本庄村々長在職中盡策折衝宜シ
キヲ得豫定ノ事業其工ヲ竣ヘ今ヤ諸般ノ懸案
悉ク圓滿ナル解決ヲ告ク何ノ歎カ之ニ如カン
是レ偏ニ貴下ノ崇高ナル人格ト公共ノ爲メニ
努力ヲ惜マザリシ賜ニシテ感銘措カザル所特
ニ既往ヲ回顧シテ感概切ナルヲ覺エ茲ニ村會
ノ決議ニ基キ金盃壱個竝ニ羽ニ重壱匹ヲ贈呈
シ聊カ感謝ノ微衷ヲ表ス

大正七年十月三十一日

本庄村長 木村梅太郎

深山廣三郎殿

源左衛門一件

天保十二丑歳

錢商内二付上田新田村甚太郎より被願附諸方
取引先より取立ニ合候節親類一統立會相談之

上茂左門より銀子取替諸拂左ニ記ス

当方取次之分

九月廿日

一金五兩

播州梅ヶ森

米出入残銀渡ス

一金六兩

大阪天満

茶屋拂銀

一四百廿八匁

下七匁

大阪郷宿拂

庄屋へ渡

又金壱兩二分

一金武兩二分

庄屋へ渡ス

一金壱兩武歩

門戸村治郎兵衛
對談銀渡

一金五拾三匁三分

惣左衛門へ
頼母子銀残り渡ス

一金壱兩二分二朱

藤左衛門

内百匁過戻リ

取替銀渡

一銀武百五拾六匁

九分九厘

米屋

手形ニテ

右ハ源左衛門畠地賣入證文出入銀也此證文茂左
門へ渡此畠八百目ニ茂左門へ譲り渡ス

一金壱兩

当方取替銀

銀札八分 錢五十一文 請取

同武匁

又金壱兩二分

七月節季之

右ハ源左衛門被召出大坂兵庫吳田宿拂銀也

一銀武百六分一厘

村方

又利足用捨

未進

六十二匁三厘がえ

茂左門へ渡ス

一金五両

取替銀

当方出銀割合

茂左門へ渡ス

九拾一匁四分八厘

梁行四間、桁行、六間
裏葺

右諸拂入用ニ付家屋敷坂口へ質入壹目也此

外茂左門より拂出仕候拙者請取次候分右ノ外

之無候事此外諸入用書附茂左門ニ有リ

但シ戸様子釘付不残
有姿體

右之家屋敷我等所持ニ御座所此度無據要用之儀ニ付質物差入銀壹貫目儲ニ受取借用候所実正也然ル上ハ月壹日之利足加ヘ其元殿御入用之節元利共無滞急度返済可申候万一故障等出来候ハ、請人繩出急度考明其元殿へ少も御苦勞相懸申間敷候爲後日質物差入銀子借用証文仍而如件

天保十二年

銀子預り主

丑十月

源左衛門

右受人

質物差入銀子借用証文之事

一、屋敷 氏訖廿六步

分米 武斗四升三合

二、建家壱ヶ所

差入申借用銀一札之事

仁左衛門
金兵衛
藤右衛門

七兵衛

一銀八百目也

右証文年限ニ相成處銀子調達難成候ニ付段々
引合用捨ニ預リ新証文相認候寫左之通り

家屋敷買入銀壱貫目本紙証文先年之通り

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

銀子預り主

丑十一月

右之銀子去ル天保十二年丑十月私共隨ニ借
用仕候所実正也然ル所右銀子返済不仕御催
促ニ預リ其段取喰人ヲ以御願申入候所此度
格別の御勘弁被成下我等出世仕候迄御宥免
被下候段、重々難有仕合奉存候向後以来假
令幾年相遇候共渡世出来候節ハ急度御返銀
可仕候爲後証一札仍而如件

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

受人

源右衛門

嘉永三年

預り主

戌十一月

源左衛門

受人

藤右衛門

同

庄九郎

玄泉殿

坂口玄泉殿

庄九郎

同

藤右衛門

嘉永五子歳九月

一、源左衛門義三反田村□□□外方へ賣拂銀

子遣込勘定出来不申候ニ付大阪表へ被願附

出奔仕リ□□青木村寵屋庄兵衛方ニ而世話

ニ相成当村方へ立拂リ候節大阪宿拂難相成
候ニ付村方る親類之者へ割済被申附候出銀

左之通り

三拾六文三分七厘 茂左衛門

三拾六文 深 山

三拾目

仁左衛門

善左衛門

新左衛門

紺 忠

拾匁 此外分賣ニ付 金兵衛

七兵衛

佐兵衛

三拾目 藤右衛門

此者親類申分有之横尾村松田与左衛門方へ
出稼仕居候留守中故村方る用捨其替り本人

源左衛門ら実錢にて少々入相すミ候
メ貳百八拾ニ匁二歩七厘
右之通村方相すミ候

三反田村借財方ハ寵庄ガ三条村照乘寺へ引
合銀子借用仕候而三反田證文祓願相下ケ済
方仕候事

三條村照乘寺養子世話 一條聖文之寫

不通養子證文之事

右世話人

深江村

深山宋陰

加茂村

岩田五良三郎殿

一、其許殿御縁家之内も当二月生定藏と申御小兒不連ニ而貰請候則養育料として金子五拾両被下候約束右金子之内只今拾五両御渡し被下候ニ受取申候残三拾五両ハ生長之上得導之節御渡可被下候處互ニ無相違実正也然ル上ハ大切ニ養育之義ハ不及申自然已後我等夷子生候共右定藏惣領ニ相立我等跡式不残無相違相譲リ可申候追ハ已後何事ニ不寄其許殿迷惑筋一切申間敷候万一當方も不繰仕候ハバ右養育料之金子無滞返済可申候爲後日不通養子證文仍而如件

親類書之寫

三條村照乘寺

往古ヨリ夷子相續此度養子×之事

西宮

甜屋又左衛門

当住実母之出所也近年死絶へ相續之義貝屋伊左衛門引受之事右母青木村西蓮寺之娘ト嘉永元年

委子親

申十一月 三條村 照乘寺

親類惣代

深江村

岡源左衛門

兵庫波濤ヶ崎之新家町

貝屋伊左衛門

当主実母之出所ハ甜屋又左衛門也只今之小兒成長之上又左衛門方家名相續可仕候事

深江村

岡源左衛門

一札（加茂村岩田屋五良三郎／照葉寺）

当住坊守之出所ハ正寿寺之娘ト成リ入嫁ス

深江村

正寿寺

三代以前之坊守之出所ハ鰐屋又左衛門也

此外親類數多御座候得共署之

右之通り書付岩田ヘ渡ス

此度我等縁家之内當年二月生定藏ト申者其元殿へ以後不通ナル妻子ニ進申候處実正也依之養育料トシテ金子五拾両御渡可申約束ニ候右金子之内只今拾五両御渡申候残三拾五両ハ生長之上得尊願之節無相違急度御渡可申候爲後日差入申一札仍而如件

嘉永元戌申歲

十一月

加茂村

岩田屋

五良三郎

右受人池田西之口町

加茂屋

幸助

岡伊丹漆町

加茂屋

嘉助

三條村

照葉寺殿

右之通り岩田より受取納候

一札（深山宗詮と三條村照葉寺）

此度御賃請被成候定藏義御生長之上脇より愚
智惠ヲ附ケ不法不義ヲ致方有之住持相續不
被致節如何様ニ相成リ候共其時此度御持參
之養育銀爲ニ取戻候様之事決而為致間敷候
為後日仍而如件

嘉永元年申十一月

深山宗詮

三條村

照葉寺殿

右之通書添一札指入候義ハ先方へ指入候證
文ニ万ニ当方より不縁付候ハバ右養育料金子
無滞返済可申候と書入無候事ヲ彼是源左衛
門より申出住持之愚痴ナル心配仕候ニ付右ハ
證文之定法ナル後々心配ニ不及候他申聞候
得共合点無之候ニ付無縁岩田へ対早々納リ
候様此一札ヲ以テ此場ヲ納候もの也

加藤數馬兄龍伯弟吉田性ヲ名乗リ京都三条通り埋忠町ニ於テ新宅ヲ構江、自分所持之梅忠如來ヲ祭リ度事宿念之處、病身ニテ時落不來残念之弟ヲ死期ニ至リ、妹菊江遺言之處、此妹モ多病ニテ難相違候ニ付安政二年歲当方江來リ頼ミ候ニ付委細致承知候處從來娘八重弟埋忠如來之御命日ニハ當方之佛體ヨリ京都江向ケ御佛飯ヲ備へ居候處安政三年丙辰歲十一月十五日法忍講相勤候ニ付佛體教拂除候處天上内裏ヲ良の方ニ当リ金泊中ヨリ三寸計リ之間白色ニ見ヘ拂ヘトモ不落能々見定メ候得バ花也依而拂残リ之花翌日住持伴僧三人參詣之上相尋候處世人役僧得る見定メ是ハ世上ニウドゲト唱ヘ侯花也先年京都東寺弘法大師須弥燈之前欄干ニ出来諸人參詣教郡集候事有之候其節弔致參詣見覺有之候此花之咲キ候事不思義之至リト云ヘリ

候得共老躰ニ而爲往還不樂心ニ候故其花此之地へ送り見セ呉候様ト頼ミニ付二本致持參委細申述へ候處是ハ埋忠如來世ニ出現之御氣隨ニ有之候哉と推察之上土藏ヨリ持出シ加藤家宗旨遵ヒ之事故此方ニテ大切ニ致御給仕候様と相頼ミ十二月ニ逆リ下サレ候此咄シ世間ヘツタヘ人々拜見ニ參リ候翌已年諸方遠近ヨリ夥數夢詣人有之候人ヨリ夫夫聞傳へ左ノ通り

- 一、大和國方邊之宮之傍ニ庵室アリ德本上人弟子住居昼夜急仏修行中仏前之唐ヲ金子之香燒之縁チヨリ此花ヲ生シ諸人參詣ス
- 一、東都ニ久遠仏ト云アリ此寺ニ於テ金十番燒ヨリ生シタルヲ諸人探見ニ參リト其時見覺有之ト者此宅へ參詣ス
- 一、江戸之街米屋之座敷障子之情ヨリ出シタル事アリ又襷ノ縁ヨリ出シタル家モアリ
- 一、肥前唐津ニ酒造家ノ大黒柱ヨリ出シタル事アリ其時見物之人拙宅へ參リト

一、江戸街影物師ノ居宅座敷天上裏ヲノ三寸ヨ

リ出シタル事アリ其弟子兵庫津西出町へ來
リ致影物居之節ニテ見物ニ來リ致物證ト

右參詣人之帖ヲ聞傳ヘ色々噂イタシ候者モ
有之御公義御目附ケ役人ヨリ小頭番人等ヲ
以テ聞合セニ參リ委細頼ミ次第

何ヶ年以前ヨリ此仏壇此家ニアルヤ又何方
之仏壇家ニ求メ候代價何程之仏具テ候哉

何月何日頃ヨリ此花咲キ候哉との御頼ニ付
一々的白ニ申上置候處其後何之御沙汰モ無
之候

一、花之形□長サ凡一寸或ヒハア細キ事毛髪之
如ク紫黒色光リアリ花白色小米粒之如ク

何月頃ヨリ咲キ候哉不分明候得共凡七月頃
ヨリノ事トモ推察ス

辰年ヨリ巳午未歳ニ至リ不落花

去備來リ是迄咲キ候世間ノ帖ニハ三十日五
十日相過キ候得其花ノ色紫黒色ニ変シ枯ル
ト云ヘドモ信心ニ依テ無際限ト云ヘリ

右優曇善法恩講ニ參リ初テ見定メテ伴僧惠
雲子ハ越前国吉田郡高木村弥勒寺次男惠雲
正寿寺伴僧也

本庄村史資料

深山家文書（追録一）

一九八六年三月三十一日発行

編著者 本庄村史編纂委員会

発行所 神戸深江生活文化史料館
神戸市東灘区深江本町三丁七十五

印刷所 印刷ショップ フ タ バ

